

令和6年2月号

高尾山報



一年の幸福と世の平穩を祈る初詣

令和6年能登半島地震被災者の皆様に 謹んで御見舞い申し上げます

本年一月一日に発生した石川県能登地方を震源とする地震により、お亡くなりになられた方のご冥福と、被災された皆様へ謹んでお見舞いを申し上げます。

また、一刻も早い復旧・復興とともに、一日も早く平穏な日常が戻りますようお願い申し上げます。

大本山 高尾山薬王院

長い冬の隣で遠慮していた春も、立春を迎えれば一気に顔を出してくるでしょう。植物も一層芽吹き、冬の間は眠っていた動物たちも活動を再開します。「楽しみ的一年は短くて苦しみの一日は長い」(苦しみを感ずるほうが痛切)という言葉の暖かな陽光が、辛い思いをなされていく多くの方に降り注ぐよう願います。

今月号では、弘法大師空海(七七四〜八三五)と音楽、とりわけ須須神社(石川県珠洲市)に伝わる「蟬折の笛」との結びつきについて書いてみたいと思います。室町時代に流行した中世芸能「幸若舞」の一つに、牛若丸(後の源義経)を主人公とする「烏帽子折」という曲があります。その中で「それ笛の名には、漢竹こ竹やう竹、青葉ふた葉、天人の一重がくし、弘法大師の蟬折

竹を三節に切り「縁があればまた日本で巡り会おう」と言つて河に流します。やがて日本に流れてきた竹を弘法大師が見つけられ、言葉をお交わししてお取り上げになりました。本当に不思議な竹でございませう」と語ると、青海波という楽(曲)を「天へも響け」とばかりにお吹きになったのでした。『御曹子島渡り』
ここでは「蟬折」が弘法大師由来の笛と伝えられています。「平家物語」に語られていた中国伝来の「蟬折」が、いつしか弘法大師の伝説とも結びついていったのでしよう。御曹子が吹かれた「青海波」は雅楽(舞楽・管絃)の曲名で、雅楽の中でも華麗で優雅な名曲と称されます。「蟬折」の澄んだ音色は、きつと虚空へと広がり鳴り響いたのでしよう。
伝説によると、義経は都落ちして能登へと向かい、流罪となつていた平時忠(一一三〇?〜一一八

法の水茎

大正大学講師 高橋秀城 (140)

令和六年元旦に発生した石川県能登地方を震源とする能登半島地震により、被害に遭われた皆さまに謹んでお見舞い申し上げます。一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

珠洲の海に

朝開きして

漕ぎ来れば

長浜の浦に

月照りにけり

(『万葉集』大伴家持)

(珠洲の海から夜明けを待つて漕ぎ出して来ると、長浜の浦に着いた時にはもう月が照り輝いていたよ)

この歌は、奈良時代の天平二十年(七四八)の春、当時の越中守(現在の富山県の長官)であつた大伴家持(七二八頃〜七八五)が詠んだものです。能登地方の視

察を終えた家持は、早朝に珠洲(現在の富山県珠洲市)の港を出航し「珠洲の海」を南へと進みました。一日かけて辿り着いた長浜の浦には、どのような月が輝いていたのでしよう。

今回の地震で被災された方が、地震当日の美しい月を写真に撮られていました。私はニュースで見ましたが、大変な目に遭われている中で「こんな時でも月が綺麗」と仰つていた姿が忘れられません。

あらたまの年行き返り
春立たば
まづ我が宿に
鶯は鳴け
(『万葉集』大伴家持)
年が改まつて立春を過ぎたならば、まずは私の庭で鶯よ、鳴いておくれ

我が朝の笛には、宇治山と島竹、より竹などこそ申せ、まだこそ聞かね草刈笛とは」と記されており、中国から渡来した竹で作られた「弘法大師の蟬折」という笛の名が挙げられています。この笛を空高く吹き鳴らすと「万事を静めてあそばしけり」(全ての憂いをお静めになった)とも語られています。

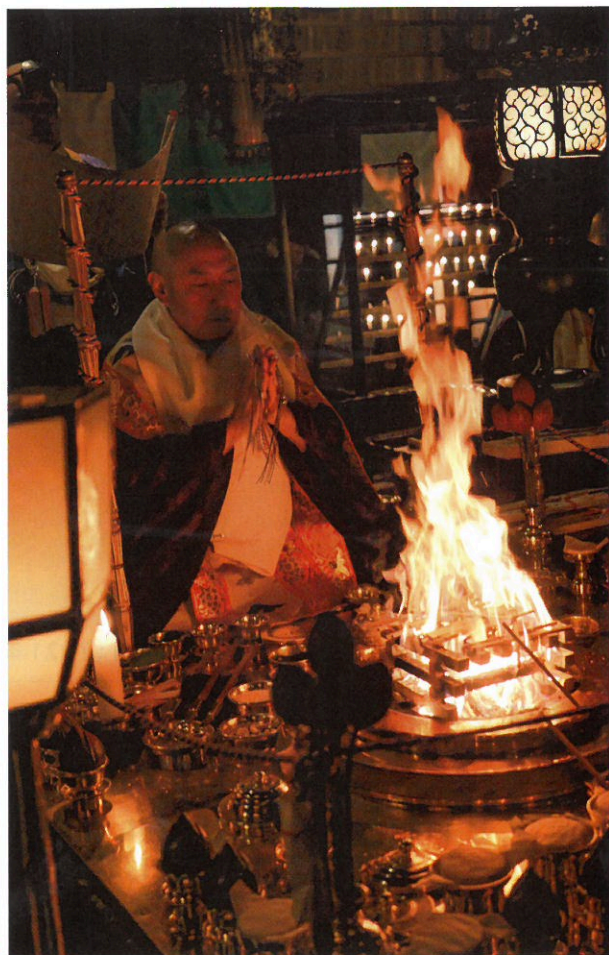
その後は、源頼政(一一〇四〜一一八〇)や高倉天皇(一一六一〜一一八二)を経て源義経の手に入つたと伝えられていますが、先ほどの幸若舞曲『烏帽子折』に見られたような節がついていた。ある時、高松中納言実衡(一一〇〇〜一一四二)がこの笛を吹いたとき、普通の笛と同じように、うっかり膝より下に置いたところ、笛が無礼を咎めたのか、節の蟬が折れてしまった。この逸話から「蟬折」と呼ばれるようになった」と記されています。



立春を過ぎ芽吹きの時を迎える



山中 込晶さんによる新年を寿ぐ奉納舞



世の平穩を一心に祈る佐藤貫首



これって大吉だよ!

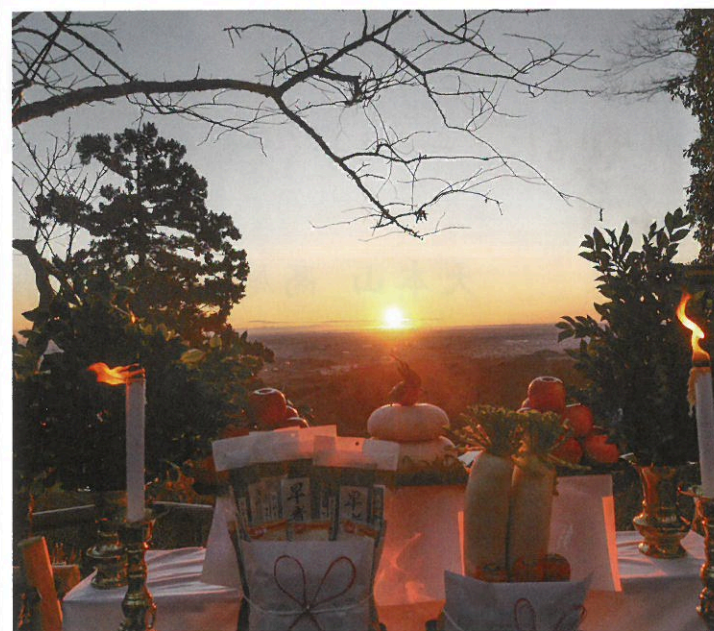


大本堂にて御信徒の皆様が諸願成就を願いご本尊様に一心に祈りを捧げる

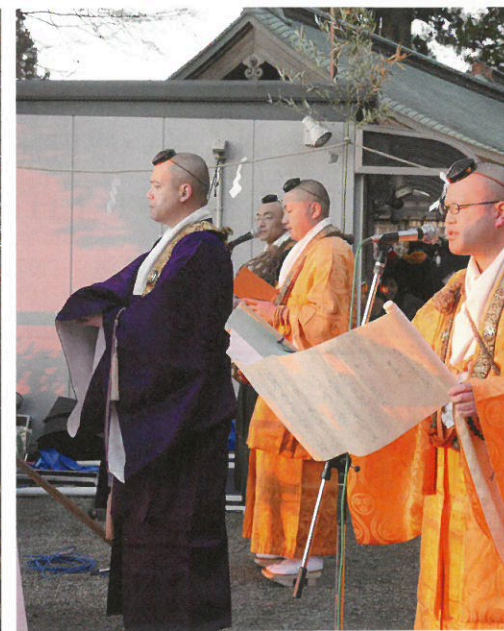
本年が良き年となりますように…

新春に祈る 高尾山初詣

令和六年 甲辰 (きのえたつ)



迎光祭では水平線の彼方より昇る初日の出を祝う



善男善女が御本尊様と御縁を結ぶ

令和六年甲辰を迎えた大本堂では、二年参りに訪れた大勢の御信徒の皆様をお迎えして、佐藤貫首導師のもとと世界平和、国土安穩、家内安全、心身健全、身上安全、心願成就、その他御信徒皆様の諸願成就を祈り、新春特別開帳大護摩供が厳修されました。

訪れ、御本尊様との御縁を深められました。元日の明け方には、昨年引き続き境内地広庭に祭壇を設け、参拝の皆様と共に初日の出を祝う、「迎光祭」を執り行いました。大勢の参拝者と共に、御来光を拝し、一年の平穩無事をお祈りすることができました。御信徒皆様にとつて、令和六年が希望に満ちた輝かしい年となるよう心よりご祈念申し上げます。

高尾山年代記

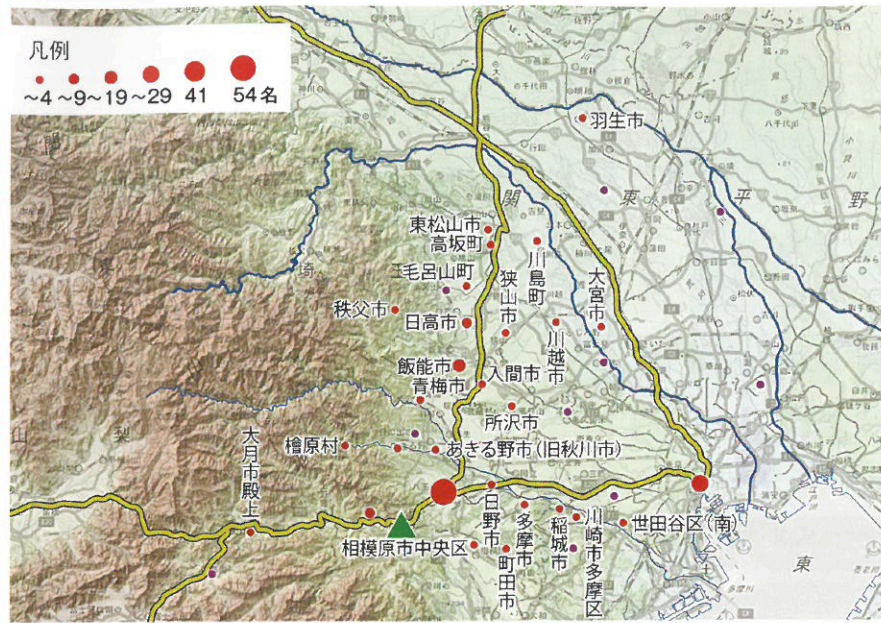
歴代山主の事跡をたどる

明治大学博物館 外山 徹

50

十八世秀神8

護摩札配札と信仰圏の拡大(上)



『地図中心』587号特集高尾山(2021年8月)から転載

寛政(享和年間(一七八九〜一八〇四)における高尾山信仰の様子を見てきたが、この時期の信徒の量的・面的拡大傾向についてはどのような状況にあったのだろうか？

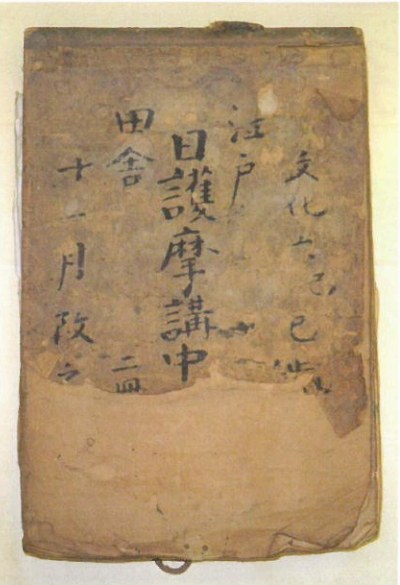
信仰圏拡張傾向の空白

高尾山信仰の興隆と八王子宿の経済発展は少なからぬ相関関係を有すると考えられるが、八王子宿が絹市場として台頭するのは比較的遅く、天明年間(一七八一〜一七八九)になってようやく青梅宿など近隣を凌駕するようになったとされている。以前に取り上げた「永代日護摩家名記(以下「家名記」と略す)」という檀家帳によると、それより以前の寛延元年(一七四八)から明和六年(一七六九)にかけての時期、武蔵国入間郡・高麗郡方面(埼玉県飯能市、日高市、川越市、東松山市等)での護摩檀家の発生が顕著で、八王子から日光協往還(現在の国道二六号等)を北上する方面との物資や人の往来活性化の兆候とも考えられる。また、天明三年の浅間山噴火を契機に甲州道中の通行量が増えた点も、八王子の経済的台頭の背景たり得たと言及した。

この護摩檀家の分布は信仰圏の拡がりを一定程度反映していると考えられるが、残念なことに「家名記」の記載は天明四年までで途絶えている。記載を中止したのか、以降のページが欠落したのか定かでないものの、何れにしても寛政(享和期)については高尾山信仰の面的拡大傾向を知る術がない。図にあるように、護摩檀家の分布が北は埼玉県北部、西は山梨県東部、南は神奈川県相模原市域に拡張していた天明四年段階の次の動向は、四半世紀の後となる文化六年(一八〇九)十一月の日付が表紙に付された「江戸田舎日護摩講中元帳(写真・以下「元帳」と略す)」の成立を待たねばならない。

「江戸田舎」と表紙に記されている点が印象的だが、前号までに述べたような江戸における積極的な布教活動の結果、一定数の護摩檀家を獲得することができたという結果だろう。「家名記」では享保期(一七一六〜一三六)後半から天明にかけて江戸在住者の新規加入が低調だったが、実際、「元帳」では当初記載された護摩檀家名のおよそ四分の一を江戸在住者が占めるようになっている。

帳簿の名称にある「講中」と言うのは、一般的には村や町の共同体を単位とする集団がイメージされるが、帳簿冒頭の「心得の事」という記事では、定期的に高尾山の護摩供の施主となる者(護摩檀家)を「日護摩講入りの者」と定義している。一ヶ年のみのは参詣の際に護摩札を渡し、札の届け



「江戸田舎日護摩講中元帳」法政大学多摩図書館寄託

先があれば別紙に記す。永く毎年札を受けたという者があれば、その住所をこの帳面に記すようにとある。護摩札は護摩供の施主となった証として授与される護符だが、供養の場に参列せずとも、施主として配札を受ける仕組みがあったことになり、配札は正・五・九月に行われていた。

「心得の事」の後にしばらく白紙のページをはさんで、配札先の村名と、以下、檀家の名が書き連ねられている。記載は高尾山北麓の上長房村(八王子市裏高尾町・西浅川町他)から始まっている。同村は近場であり檀家の数

も多いことから天柴、摺差、新井(荒井)以下の小字を見出しとし、下長房村(同市長房町)をはさんで、高尾山の東南麓にあたる上柵田村(同市高尾町、西浅川町他)もまた原宿から房ヶ谷戸、案内まで小字が記される。「長房・柵田両村の分天柴より案内まで」云々と書かれ、地区としていったん区切りが付けられている。

次のページから記載は北方に移り、下恩方村(八王子市恩方)から五日市宿(あきる野市)へ北上、南に折り返して数か村を経由、元八王子村から甲州道中を横切り、狭間村、上館村など現在の八

王子市街の西南方、京王高尾線沿線の村々へと続いてゆく。

配札の順路

次に「相州札廻りの始め順なり」と記載があり、この村ごとの順が配札順路に沿っていることが示される。

寺田村(八王子市寺田町)、小比企村(八王子市小比企町他)から南方へ七国峠越えの鎌倉街道を下り、相州町谷村(神奈川県相模原市緑区町屋)などを経て、九沢村(同市緑区上九沢・下九沢)まで南下して反転しているが、この相模国北部の一角は薬王院の末寺・門徒寺院が分布する地域である。続いて、新地・千人町から八王子宿へ入る。この間、八王子千人頭の名が続くのが印象的である。八王子宿には当然ながらまとまった人数の記載がある。宿内を巡ったところであったんきりが付けられ、空白ページがある。

次の大和田宿(八王子市大和田町)の右肩には「江戸道中」と記され、日野、府中、上石原、上高井戸、下高井戸、代田橋と甲州道中沿道の宿場をたどる。その次のページには「以下、江戸札」とあるが、草加宿・稗田村(埼玉県草加市)の記載が例外的にあり、小網町、堀留町と江戸に入る。続く江戸の記載は芝から始まり、京橋、日本橋、神田方面へ北上、この間、三井越後屋をはじめ屋号を名乗る商家の名が連なる。浅草から東へ深川方面、隅田川右岸へ戻って馬喰町、八丁堀、麻布を経て、四ツ谷、市ヶ谷、牛込と外濠を北上するあたりでは紀伊徳川家や旗本・御家人の名も目立ち、湯島から神保町へ南下、番町、麴町、内濠の中へ入ってからは大名家の名が並び、常盤橋の福井藩松平家と同家への書状の案文でいったん当初の筆跡による記載は終わる。

さて、檀家名の記載は空白ページによる区切りや「江戸道中」「江戸札」などの見出しから、①上長房・下長房・上柵田の最寄り三ヶ村、②八王子宿より西側と相模国北部の村々、③八王子宿、④甲州道中上の宿、⑤江戸(及び草加宿)という区分がなされていることになる。そして、ここにある地区以外の檀家への配札は、檀家間の札の取次によって行われていたことが帳簿の記載から分かる。この取次関係を分析することにより、信仰圏の面的な拡がりのみならず、それがどのような契機でもたらされたか考察できる素材として、「元帳」は大きな史料的价值を持つ。

《参考文献》林玲子『江戸問屋仲間の研究』(御茶の水書房、改装版一九七八)

おことわり 本連載では史料の引用について、適宜読みやすく原文に手を加えています。



書院 松の間にて記念撮影する佐藤貫首と内局の皆様

真言宗智山派総本山智積院より、芙蓉良英宗務総長をはじめとし、山川弘巳総務兼教学部長、服部融亮教化部長、大森真弘法務部長、日下敏啓財務部長、倉田隆伸宗務出張所長の皆さまが来山されました。
御一行は、到着後大本堂でご法楽をお勤めされ、山内僧侶・職員の出迎えを受け、佐藤貫首と当山書院・松の間にて新年のご挨拶を交わされ、しばし歓談の後に下山されました。

総本山智積院
内局御一行 年賀に来山
二月十八日(木)



花材：ミヤコワスレ・ボケ・パイナップルリーフ

暦では春を迎える時期となりましたが、まだ寒い時期が続きます。寒い時期は草物(くさもの)があまり生えていないため、いけばなの花材も硬い皮を持つた、枝物の花材が多く使われます。
今回はそんな寒い中でも草物のミヤコワスレが手に入ったのでその動き

いけばなの心 ④8

華道教授 佐藤 宗明

暦では春を迎える時期となりましたが、まだ寒い時期が続きます。寒い時期は草物(くさもの)があまり生えていないため、いけばなの花材も硬い皮を持つた、枝物の花材が多く使われます。
今回はそんな寒い中でも草物のミヤコワスレが手に入ったのでその動き

この作品はミヤコワスレにしなやかな枝ぶりのボケを取り合わせる事で、枝物の力強さと草物の瑞々しさが強調されるように生けています。
また、枝ぶりに大きな違いがあったので挿口を二つに分け、お互いの良さがより見えやすいようにしています。実際には一緒に生えることのない植物を自在に取り合わせて、より魅力的に表現できるのはいけばなを生ける時の楽しみの一つです。

大北斗供養(星まつり)

十二月二十一日(木)・二十二日(金)



昨年の冬至の日、大北斗供養(星まつり)を厳修致しました。
星まつりとは、皆様を巡り来る九星に祈りを捧げ、災厄を除き福運を招く祈禱で、冬至前日の夕方に開白し、冬至の朝に結願を迎えます。
佐藤貫首導師のもと、御信徒皆様の除災開運を祈願すると共に、各位の諸願成就を一心に御祈念致しました。

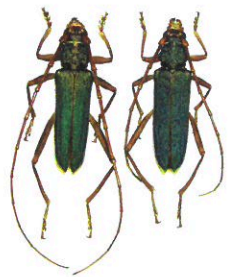
初甲子大黒天祭

一月一日(月)



高尾山の昆虫

アカアシオオアカミキリ



昼行性で金属光沢が強い美麗種揃いのアカカミキリの仲間にあつて、例外的に夜行性で知られるアカアシオオアカミキリ(赤脚大青天牛)がいます。
クヌギやコナラ等の樹液に夜間集まり、東京では局地的に産する種です。
昆虫の宝庫高尾山には、本種も確実に生息していると考えられましたが、これまで出会ったことがありませんでした。

昨夏は都心の公園で、昼間にカブトムシが大発生するという異変があり、これはカシノナガキクイムシが媒介するナラ菌により、ナラ枯れが発生したことに由来のものとされます。
食害された木からは樹液が大量に流れ出るため虫が多く集まり、従来報告が少なかったアカアシオオアカミキリも少なからず見つかりました。
キラキラ感があり夜間の樹液には不釣り合いな印象な本種ですが、緑色の体色で触角と脚が赤く、特に長い後脚で樹幹を活発に這い回る姿は獷猛なヤブキリを思わせ、もしかした擬態効果があるのかも知れません。
また、芳香を出すことで知られ大量にいると匂いで分る程であり、今後の状況がとて心配なナラ枯れの中で、本種の発見だけが救いだったように感じます。
(撮影・文松島 孝)

観音菩薩の宗教

74

国際教養大学特任教授 金岡秀郎

如意輪観音（その12）

弘法大師空海により齋さいされた如意輪観音信仰は、その弟子たちによって図像や彫刻による可視化が進み、真言密教の中での役割を深めていった。なかでも代表的な名品である観心寺の木造如意輪観音坐像は、嵯峨天皇の皇后であった橘嘉智子すなわち檀林皇后が承和の変後の平安を願い、敬愛法の本尊として尊崇されたとされる（前号参照）。他の説では承和の変に際し、橘嘉智子が実子の仁明天皇を護るため如意輪観音に敵の降伏を祈願したともいわれる（勝浦令子『橘嘉智子』吉川弘文館、二〇二二年、一七七―一七八頁）。和平と降伏という異なる解釈がなされるのも、如意輪観音に広がる

実証できない。橘嘉智子は生前に薄葬を遺令してあり、自分の埋葬のため山陵の造営を禁じていた。それに従い、崩御の翌日の嘉祥三（八五〇）年五月五日には深谷山に葬られている（勝浦令子、前掲書、二〇五―二〇九頁）。しかし近世になると檀林皇后が遺詔して遺体を放置させ、腐敗していくさまを描かせたとする「檀林皇后九相説話」が多くの文献に見られるようになる（同書、二二七頁）。その理由は、橘嘉智子の陵墓の地が「延喜式」に記されているにもかかわらず、明治になって現在の京都府の深谷に治定されるまでその場所が不明になったためと推定されている（同）。歴史学者の勝浦令子によれば、「生前だけでなく、死後も九相によって色欲を抑制させ、無常の世を悟らせることによって、他者を仏道へと導いた檀林皇后こそが、『あるべき理想的な女性』であると、女性に示し

たものと解釈されている」という（同）。

生前の事績に目をやれば、橘嘉智子は多くの仏教外護を行なっており、それが後の『九相説話』に投影されたことは明らかである。平安期成立の『日本文徳天皇実録』は橘嘉智子に関する重要な伝記を提供しており、勝浦令子はこの伝記のほか、多くの史料を博捜してその足跡を明らかにした。それによれば、葛野郡に橘氏ゆかりの太后氏神を祀る梅宮大社を創建するなど神道を重んじる一方、あまたの仏教興隆事業に関与した。例えば、嵯峨野に創建した尼寺の檀林寺、観心寺講堂の建立や同寺の如意輪観音像造像である（同書、六頁）。さらに僧の惠尊をたびたび唐に派遣し、当地で神異を能くした西域僧の僧伽や、訳経僧の康僧会に繡文袈裟を贈つてもいる。元亨二年（三三二）成立の仏教史書『元亨釈書』によると、嘉智子は惠尊に

金幣を委ねて唐から日本への禅僧の招聘を依頼し、義空の来日が実現したという（同書、一八七―一八九頁）。嘉智子は禅に強い関心を持っており、ために義空を招いたにもかかわらず、嘉智子が崩御すると義空は唐に帰ってしまった。その結果、九世紀の真言僧らが禅に関心を持つていなかったことなどもあって、この時代に禅が日本に定着することはなかった（同書、一九〇―一九二頁）。とはいえ橘嘉智子の幅広い仏教諸派への帰依と実行力は、平安初期の日本仏教の多彩な展開に寄与したことはまちがいない。

論点を如意輪観音像の造像に戻そう。空海およびその弟子たちは、各寺院に如意輪観音像を製作し祀つていった。仏教美術史家の井上一稔によれば、観心寺の如意輪観音坐像は、空海の『御遺言』に従い最初の東寺長者となった實慧が発願し、その弟子の眞紹が製作した



江戸期成立の『檀林皇后九相図』の冒頭に見える檀林皇后。木版 (Honolulu Museum of Art 所蔵。
https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/c/c1/Nine_Stages_of_Decomposition_of_the_Heian_Period_Empress_Danrin%2C_Honolulu_Museum_of_Art_II.JPG)

縁起資材帳』所載の多くの寺宝が失われた。そのひとつに藤原明子の発願によって製作された白檀の如意輪観音像がある。観心寺の像にし

とされる（井上一稔『日本の美術5―如意輪観音像・馬頭観音像』至文堂、一九九二年、二九頁）。

實慧の弟子で入唐僧の慧運は、嘉祥元年（八四八）に仁明天皇の皇太后にして文徳天皇の生母であった藤原順子の命により山科に安祥寺を開創した。東寺が伝える貞観九年（八六七）の『安祥寺縁起資材帳』は慧運が書いたもので、その内容は安祥寺の縁起とともに詳しく研究されている（上原

真人「編」『皇太后の山科―山科安祥寺の創建と古代山林寺院―』柳原出版、二〇〇七年）。それによれば造営当初の安祥寺は伽藍の規模や所蔵する什宝が質量ともに屈指であった。しかしながら安祥寺は平安末期より衰微し、室町初期には無住の荒寺となつてしまった。戦国時代にはほとんどの伽藍が焼失し、徳川家康が復興するまで往時の威風は見る影もなくなつていた。そのため『安祥寺縁起資材帳』所載の多くの寺宝が失われた。そのひとつに藤原明子の発願によって製作された白檀の如意輪観音像がある。観心寺の像にし

ても藤原明子の如意輪観音像にしても、高貴な女性仏教信者の外護により作製されたもので、「皇室女性との関わりで興味深い」（井上前掲書、三〇頁）と指摘される。如意輪観音像が女性的なのは女性が発願者だったからか、それとは逆に如意輪観音菩薩が女性的であるから女性の発願者を生んだのかは、一概に断定できない。しかしながら、飛鳥時代の推古天皇や、天平時代の光明皇后（拙稿『観音菩薩の宗教』⑮）をはじめ、橘嘉智子や藤原順子など、日本仏教において女性が大きな役割を果たしてきたことは特筆すべきである。安易な比較は控えるが、他の仏教文化圏でこれほどまで有力な女性仏教信者や女性外護者を見出すことは難しい。キリスト教文化圏やイスラーム文化圏も然りであろう。日本仏教史上、表の牽引者を聖徳太子や祖師たる空海・最澄などの男性とす

ると、篤信の女性たちは日本仏教の「影の主役」といつてもよいのではなからうか。

さらに本稿では橘嘉智子と如意輪観音に鑑み、もうひとりの女性、正子内親王の名を挙げておきたい。正子内親王は嵯峨天皇と橘嘉智子の皇女で、淳和天皇に嫁して皇后となった。史書の『帝王編年記』によると正子内親王は山で光を放つ桜を見つけ、空海に頼んで神呪の如意輪観音像を刻んでもらったという。ただし『帝王編年記』より古いと考えられる『元亨釈書』には正子内親王ではなく、如意輪観音菩薩を篤く信仰していた如意妃の体験として上記のエピソードが綴られている（井上一稔、前掲書、三二頁）。如意妃は淳和天皇の第四妃である。この如意輪観音像は六臂で右足を左膝に乗せる半跏の姿勢を取っており、通常見られるように右足を立てていない。『史跡と美

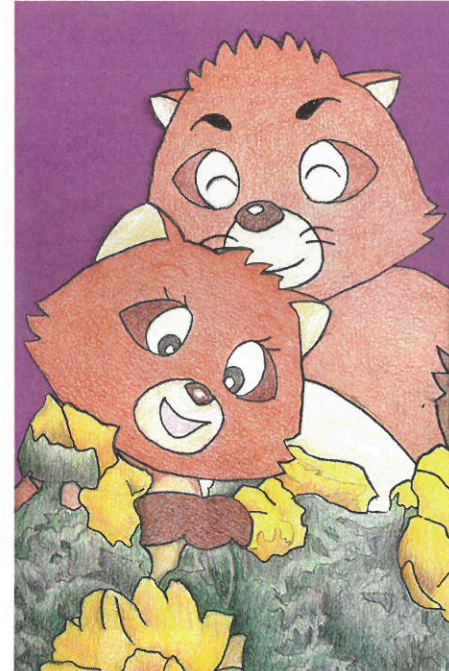
術』三六号の報告によると、左膝と足は後補のもので、左足はもとは垂下していたのではないかと指摘されている（井上、前掲書、三二頁）。またその製作年代も空海より後の十世紀後半と推定されている（同）。

『帝王編年記』の所説を取れば、母の橘嘉智子から娘の正子内親王に如意輪信仰が伝えられたことが推定でき、母子の恩愛と相承を髣髴させる。しかしこれに反すべき歴史学の見解がある。承和の変（八四二年）に際し、橘嘉智子は皇太子として孫にして藤原順子の子である道康親王（後の文徳天皇）を選んだ。これにより同じく嘉智子の孫にして正子内親王の子であった恒貞親王は選ばれず、正子内親王は悲しみの余り泣き叫んで母・嘉智子を怨んだという（勝浦、前掲書、二六六頁）。神呪寺如意輪観音像は、今に至るまで史実を語らず穏やかに思惟したままである。

「あれは本家の爺さんだ、何してるんだ？」
 オレはぬかるんだ山道を登って爺さんのそばへ行く。朝日に篠竹の影の雪が光っていた。
 「ああ、耕一か……福寿草がなくなってるだよ」
 山の斜面を見ていた爺さんがつぶやく。二月の初め、毎年そこには福寿草が群生していた。だが目の前の斜面には草一つ生えていない。昨夜、突然大雪が降ったのだ。
 「雪にやられたのか？」
 オレがいうと、爺さんは「違う」という。「雪ならしなびてるし、何も残ってないのは変だ」と。
 福寿草が顔を出せば、露やタラの芽も顔を出す。春の印の花だし、黄色の可愛い花を見てると心が穏やかになる。
 山菜採りに行く前に福

「風流なタヌキだな」と。「神社のタヌキならやりかねん。賢いと評判だ」
 山にタヌキはいない。神社の二匹だけが村のタヌキだ。人懐こくて、人と参道を歩いたり、手や尻尾を振るといふ。おかげで参拝者が増えたようだ。「このまま咲いたら雪にやられたよ。移してくれてたら有難いが」
 爺さんの言葉にオレは頷く。この足跡は自由に動ける神社のタヌキか他のタヌキか。爺さんは、山菜摘みに行くという。オレは足跡をたどる。足跡は雪の上に点々と続いている。
 タヌキを探したが、見つからない。夜行性だから昼間は眠っているのだから。斜面を登り山頂をこえ下る。足跡はぬかるみに消えている。その先は神社だ。オレはまっすぐ神社へ向かう。山門の赤が鮮やかだ。参拝者が増えたから塗り直したのだろう。同級生の宮司も通いから住みこみに

「あはなし散歩道」
 タヌキと福寿草
 町田市 大澤桃代



「あつー」とオレは叫んで駆け寄った。福寿草だ。一本ではない。あの斜面の景色と重なる。
 「それからすぐ雪になった。間に合ってたよ良かった」
 「そうか、爺さんも喜ぶ」
 オレがふり返ると、タヌキが二匹、そこにいた。タヌキたちは、フンツと鼻を鳴らして、福寿草に近づくと、得意げに、花を眺めていた。
 (挿し絵・小出 茂)

「高尾山健康登山の証」
 年間約二百八十万の人々が訪れ、「世界一登山者の多い山」として知られている高尾山。
 登山者の皆様の励みになれば、との思いから平成十一年から健康登山を始め、いまでは約五万人の方々が会員となられております。
 期限はございませんので、御自分のペースで楽しみください。
 また、一冊に付き二十一回スタンプを押すペー

高尾山 季節散歩

和風月名

如月

「きさらぎ」

「如月」という文字だけを見ると季節感を感じられませんが、しかし、有力な語源とされる「衣更着」という文字を見ると、服を重ね着するという意味となり、厳しい冬の寒さを感じられる言葉になるでしょう。

今月の風物詩 閏年

本年は閏年に当たり、二月が二十九日までとなります。
 太陽暦(グレゴリオ暦)は太陽が黄道を一周する約三百六十五日を基準として、一年を設定しております。
 しかし実際には、約六時間多くズレが生じてしまう為、原則として四年に一回閏年が設定され、一年が三百六十六日になります。

健康登山者投稿作品 季節の絵手紙「七福神」

八王子市 梶谷玲子 様



一步一步煩惱滅除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

二十五段 一人だけで悩まない

自分一人の力では解決するために何日も掛かることでも、周りの人に聞けたり協力すれば、すぐに解決することがあります。一人で悩んでいると極端な思考に陥りがちですので、自分の悩みを相談したり、他人の相談を聞いてみましょう。

◎健康登山の皆様へ
 高尾山報投稿の御案内
 御読摩受付所では、皆さまの『健康』に関する思いや思い出・習慣、又は『健康登山』を通じて経験した出来事などの、心温まるお話を聞かせて頂いています。
 そこで、皆様のお話を多くの方々にお届けできますように、御読摩受付所に「投稿箱」を設置致しまして、皆様から投稿頂いたお話や作品を『高尾山報』に掲載させて頂いております。
 その他、おもしろい体験・変わった出来事・ポエム・俳句等どんなお話でも結構です。是非お聞かせください。御協力宜しくお願い致します。
 ※ 投稿頂きました作品は全て掲載できるよう努めますが、当山の判断で掲載しない場合もあります。また、多くの方に投稿頂きました場合、掲載までお時間を頂く場合がございます。すことを御了承下さい。

「高尾山健康登山の証」
 年間約二百八十万の人々が訪れ、「世界一登山者の多い山」として知られている高尾山。
 登山者の皆様の励みになれば、との思いから平成十一年から健康登山を始め、いまでは約五万人の方々が会員となられております。
 期限はございませんので、御自分のペースで楽しみください。
 また、一冊に付き二十一回スタンプを押すペー



帳面……七百円
スタンプ…百円

恩師・菊地正先生に学ぶ(7) 創作書おろし やさしいケロンタ

八王子市 石井忠明

とんとんむかし、高尾の山裾に案内川という、とてもきれいな川が流れていたと。周りの人達からは別の名をサラサラ川とも呼んでいたそう。その川にはな、沢蟹や小魚が仲良く住んでいたんだと。

ところが川の片隅に住んでいるオタマジャクシの「ケロンタ」だけは醜い体をしているので、皆から馬鹿にされていたと。

その日もケロンタは川面の陰で泳いでいると、魚さんやドジョウ君が寄ってきてな、「ケロンタよ！お前は どうしてそんな変わった体をしているんだい」もう一匹の魚さんも言ったと。「頭でっかちでさ、尻尾もチョロチョロしてさ、君は一体全体何者なんだい」とからかわれていたと。

でもケロンタは悔しさをじつと堪えていたと。

ある日のこと、ケロンタが魚さんたちからかわれていると、とうとう我慢できなくなったケロンタは言ったと。「僕は大きくならな木や草がある所に行けるんだって、お父さんやお母さんが言っていたよ。魚さんも大きくならな一緒に行くよよ！」それを聞いた魚さん達は大笑いしながら言ったと。「ケロンタよ！馬鹿なことを言うなよ！俺の母ちゃんから、サラサラ川の他にどこにも行つてはいけなよって言われているんだ！ケロンタだつて行けるはずがないよ！ウハハハハ！」

そして春が終わり梅雨の季節がやって来た。するとなあケロンタの姿勢が少しずつ変わり始めて

な、何時の間にか足が生え、次に手が出てきてま、チョロチョロしていた尻尾がだんだん無くなっていったと。魚さん達も今のままで少しづつ大きくなつて行つたんだが、ケロンタだけはますますおかしな体になつていくので、魚さん達も気味悪がり、ケロンタに話しかけることも無くなつたと。

しとしと雨が降るそんなある日、ケロンタは水の上に浮かぶ大きな葉っぱを見つけたと。その葉に飛び付きたくなり、思い切つて飛んでみた。なんとそこは素晴らしい所だな、葉っぱの周りには色とり取りの花が咲き乱れ、木々の間からは美しい鳥の鳴き声や蝉の音が聞こえていたと。

ケロンタはその美しさにびつくり仰天、大きくなつた目をキョロキョロしていたと。そこへ蝶々さんが飛んできてな、ケロンタに挨拶をし、すぐにお友達になつたと。悪口を言っていた魚さんや



今も穏やかな流れをたたえる案内川

ドジョウ君達は川の中から羨ましく見ていたと。そして暑い夏がやってきた。ケロンタは立派な殿様蛙になつていたと。ケロンタはが木陰でウトウトしていると、人間の様子の悪戯小僧がな、ブツ

タイ(竹で編んだ漁具)ちゆう網を持って魚を捕りにやってきました。魚さん達はそれに気づかず泳いでいると、悪戯小僧が大声で、「魚が泳いでる！見付けたぞ！」と言いな(次ページへ続く)

高尾山仏舍利塔 結縁牌懸仏のおすすめ

高尾山にはタイ王国・王室より授けられた、大聖釈尊の真身骨を奉安している仏舍利塔があります。そしてその周りを囲むように建立された百観音お砂踏霊場がございます。

御信徒各位には、釈尊との御勝縁を結ばれますよう、仏舍利塔内に結縁牌懸仏(かけぼとけ)をご納仏されることをお勧め申し上げます。

この結縁牌懸仏は、夫々のご家族の先祖代々供養の為に、あるいは講中、参拝団の物故者慰霊の為に、お釈迦様と御信徒の皆様との尊いご結縁のしるしとして、霊名あるいは施主のご芳名を刻み、仏舍利塔内壁面に奉安し、大聖釈尊の聖骨と共に幾久しく供養されるものであります。

御納仏冥加料 一体 拾万円也



尚、お申し込みの方には「御納仏回向之証」をお授け致します。(左の写真)



がら小僧が川藻の中を抄つたと。どうしたことは運悪く悪口を言っていた魚さんが、ブツタイに掛かってしまったと。助けを呼んでもどうすることもできず、絶体絶命だつたと。それを見ていたケロンタは、「僕は殿様蛙だ！悪口を言っていた魚さんでも助けなければ！」とブツタイを持つている小僧の手に飛びついたと。

けられた魚さんはケロンタにお礼を言いきたと、「君、おかげで助かった。君を馬鹿にして悪かった、これからは友達になろう！」沢蟹君やドジョウ君達からも感謝されていったと。ケロンタは、こんなに清々しい気持ちになつたのは初めてだつたと。それから、皆仲良くサラサラ川に住んでいたとき。

とんとんむかしはへえしまい

白馬滑雪

雪上滑走弱冠好

一転一倒復一倒

白馬三山紺天眺

唐松滑雪大転倒

白馬村 厚木市 荒井 一雄

細野に夜中 目覚むれば 雪しんしんと

街灯を囲み降る

白馬八方尾根にスキーす

二十歳にてスキーの虜になり、

一転、一倒、復た一倒：

白馬三山、紺天(紺碧の空)

唐松岳からの大滑降は

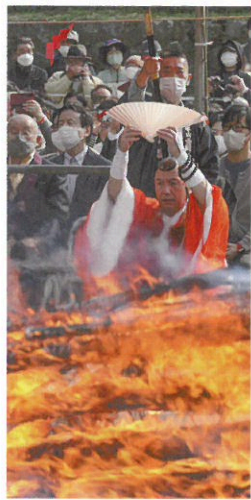
勢ひ大転倒に終る…

の眺め…



祈大願成就 身体健全

高尾 登



高尾山火渡り祭

(令和六年三月十日 日曜日)

柴燈大護摩供御壇木特別志納御案内

當山では毎年三月第二日曜日に春を招く恒例行事として、祈禱殿火渡り本尊ご寶前にて、高尾山修験道による火渡り祭が盛大に執り行われます。

火渡り祭とは、當山貫首大導師のもと、全国各地の靈山で修行を重ねた山伏が、一心に諸願成就の祈りを捧げる、関東屈指の大祈禱法要であります。

この浄行にあたり、御信徒の皆様方より柴燈大護摩供にて供される、御本尊・飯繩大権現様の功德を顕す御壇木のご志納を一本二万円にて募っております。

ご信徒の皆様、並びにご講中の講員様方におかれましては、高尾山の浄行に大いなるご信託を賜りますよう、謹んでお願いを申し上げます。

尚、ご志納の証として、ご芳名を薬王院参道に一年間掲示致します。御志納方法についての詳細は、高尾山薬王院信徒部までお問い合わせ下さい。

電話 ○四二六六二二二五

FAX ○四二六六四二九九

大本山 高尾山薬王院 信徒部

柴燈大護摩供火生三昧 高尾山火渡り祭 開催のお知らせ

三月十日(日)午後一時より 於・山麓祈禱殿大広場

国土安隠・被災地早期復興



火渡り祭「なで木」の功德

「なで木」とは御本尊様の大慈大悲の御手でございませう。

年齢・氏名を御記入の上、健康な方は益々壮健であるように、お身体に病の生じている方は、御本尊様を念じながら「なで木」でその患部を撫でさすり下さい。

高尾山火渡り祭において、柴燈大護摩供の護摩木として山伏により、

火中に供されることで、身体健全・息災延命を祈念して御本尊様よりお加持を賜り、病魔を滅する御加護をいただきます。



なで木料 一座三百円

薬王院インスタグラム紹介

薬王院では、インスタグラムを用いて各種行事や四季が移ろいゆく風景を、写真や動画で御信徒様にお届けしております。

これからも様々な写真や動画を沢山アップしていきますので是非ともフォローをお願い致します。

下記のQRコードか URLから 検索ができます。



TAKAOSAN_YAKUOIN

instagram.com/takaosan_yakuoin/



お知らせ

高尾山では、御壇木御志納の申し込みを、お電話・ファックス等で受付けております。

高尾山報の二月号に同封いたしました、郵便振替「払込取扱票」を利用してもお申し込み頂けますよう便宜を図りましたので、よろしくお申し込み申し上げます。

「払込取扱票」でお申し込みを頂く際に、願意(お願い事)が未記入でご連絡がつかない場合、「身体健全」とさせて頂きます。

また、火渡り祭の時に名前を読み上げますので、フリガナの記入もお願い致します。

尚、「払込取扱票」は、高尾山報助成金の振替にもご利用いただけます。



登山だより

三月行事日程

一日～七日

聖天秘供(聖天堂)

六日、十八日、三十日

弁天秘供日

八日

仏舍利詣り(仏舍利塔)

十日

高尾山火渡り祭

(午後二時

山麓祈禱殿大広場)

二十六日

御詠歌勉強会

(十時山麓不動院)

二十一日

飯縄様御縁日

神徳報謝百味飲食供

(九時大本堂)

二十三日

月例写経会

(十三時山麓不動院)

二十八日

奥之院開扉供養

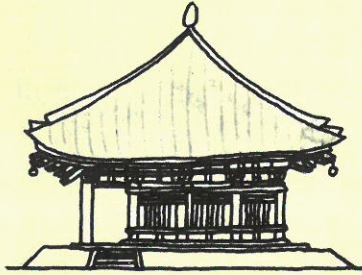
(十時奥之院)

三十一日

高尾山とんとんむかし

「語り部の会」

(十二時半山麓不動院)



毎日の お護摩奉修時間

午前9時30分
〃 11時00分

午後0時30分
〃 2時00分
〃 3時30分

ご講中・団体等
御相談下さい。

神徳報謝百味飲食供

御志納のすすめ

当山では、御本尊飯縄大権現様の日々の御加護に感謝するために、御縁日である二十一日に、沢山のお供物(百味)を捧げて、大般若經六百巻を転読し、供養申し上げる法要を執り行っております。

皆様の御志納を受け付けておりますので、ご希望の方は問い合わせ下さい。

尚、法要終了後に大本堂にて百味供養の御札を授与致します。

また、当日参加できない方にはお札の郵送も受け付けております。

毎月二十一日 午前九時(於大本堂)
御志納金 一口 三千円以上



大般若經を守護する十六善神の図

高尾山報助成金

御志納のお願い

当山では、大護摩修行等により御縁を結ばれた御信徒様に高尾山報を送っております。

引き続きのご愛読されますよう、皆様方の助成金御志納をお願い申し上げます。



高尾山薬王院ホームページ
<https://www.takaosan.or.jp>
下記のQRコードから高尾山薬王院のホームページにアクセスできます



発行所
東京都八王子市高尾町2177
大本山
高尾山薬王院
郵便番号 193-8686
電話(042)-661-1115(代)
FAX(042)-664-1199
発行人 犬山秀康
編集人 菅井倫浩
印刷 ヒラツカ印刷社
毎月1回1日発行
1部50円